

第 10 回 植物電顕若手ワークショップ

<http://bioem.riken.jp/emws2019/>

電子顕微鏡(電顕)法は細胞内の超微細構造を明らかにする、生命科学においては古典的かつ必要不可欠な技術です。しかし近年、他の新しい分野の台頭に伴い、電顕を扱うことのできる若手研究者は激減しています。特に植物科学分野では、研究者の所属学会が分散しているため、電顕法を学ぶ研究者や技術者が集まる機会はほとんど無くなってしまいました。電顕法の技術的基盤、ノウハウ等、これまで蓄積してきた知見を、今後も維持し、さらに発展させていくためには、若い世代での相互交流が必須であると考えています。2010年度から同ワークショップを開催し、植物の電子顕微鏡観察に長年携わってきた先生方にご参加頂き、アドバイザーとしてご助言とご講演を賜りました。今回は、動植物、微生物の電顕観察に関する講演、ショートトーク、ポスター発表、グループ研究討論会等を通して、世代・分野を超えた研究交流を目指します。分野や年齢、経験に限らず、多くの方々のご参加をお待ちしております。企業の方の参加も大歓迎です。

日時:

2019年11月15日(金)

10:00~18:00

場所:理化学研究所 横浜キャンパス 交流棟ホール

〒230-0045 神奈川県横浜市鶴見区末広町1丁目7番22号

参加費:無料

スケジュール:

~11/13(水)-14(木)~ 電顕セミナー「生物試料電顕観察の基礎から応用」

会場:東棟 7F E717-E719 室

~11/15(金)~ 第10回 植物電子顕微鏡若手ワークショップ

会場:交流棟ホール

10:00 開会

10:05-11:45 講演

山根 浩二 (近畿大学 農学部)

「連続切片 TEM 法を用いたイネ葉肉細胞内のオルガネラの 3D 解析」

植松 勝之 (マリン・ワーク・ジャパン 海洋地球科学部)

「海洋(微)生物の試料調製法とその工夫」

長里 千香子 (北海道大学 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)

「固定方法の違いがもたらすもの一褐藻類の細胞質分裂の様子が見えてくるまで」

11:45-12:30 ショートトークまたは自己紹介

12:30-13:15 昼食

13:15-14:30 ポスタープレゼンテーション

14:30-16:00 講演

久米 慧嗣(理化学研究所 生命機能科学研究センター)

「生化学者・生物物理学者からみた電顕解析のおもしろさ」

金子 康子(埼玉大学 教育学部)

「電顕で植物細胞の世界を探る」

16:00-17:30 グループ研究討論会*

17:30-18:00 閉会

18:00-20:00 懇親会@所内食堂(一般 2,000 円、学生 1,000 円)

*このシンポジウムは、理研シンポジウムの一環として行われています。